

同和問題 くみんなの夢や希望が実現できる社会へ

1 ある日の出来事

「就職活動」

「今年はいよいよ就職活動！ お父さん、面接ではどんなことを聞かれるのかな？」子どもの頃からの夢だった報道の仕事をめざしている孝子さんは、落ち着かない様子。

「やりたい気持ちを伝えればいいよ。ところで本籍やお父さんの職業について聞かれても、答える必要がないことは知ってるよね？」知ってるけど、どうしてだっけ？「だって、孝子の能力や適性には、何の関係もないだろう？孝子自身について判断してもらうことが必要なんだよね。」さらにお父さん「それと会社が、『住んでいる所や家族の状況などについて調査をする』なんていうのはもってのほか！これは部落差別につながることで決まて行つてはいけないんだ。」

孝子さんは、みんなの夢が適性や能力などとは関係なく判断され、閉ざされてしまう差別は許せないと思った。そして、お父さんの話は、とても大切なことだと気づいた。

2 考えてみましょう。

日本固有の人権問題である同和問題は、封建社会の政治や経済の仕組みの中で、人為的に作り上げられた身分制度に由来するもので、特定の地域の出身であることや、そこに住んでいることを理由とした差別です。

現在も、出身地や家族の状況を理由に、結婚に反対することなどがあります。また、就職面接における不適切な質問や、最近ではインターネットを利用した差別情報の掲載などの問題も生じています。

ある地域に生まれたから、住んでいるからという理由だけで、人権が侵害され、心に傷を受けたり、不利益を被ったりするようなことはあってはならないことです。

そして、差別をする人、無関心でいる人の存在が依然として同和問題の解決を遅らせている原因の一つとなっていることを理解する必要があります。

3 同和問題の解決に向けて

私たちが取り組むべき事は、何でしょうか？

同和問題については、現在

でも結婚や就職差別などに見られるように、差別意識が根深く残っています。

差別意識をなくすため、心の中にある予断・偏見を取り除き、同和問題についての正しい理解と認識を深めていく必要があります。そのためには、次のようなことが大切になります。

思い込みや偏見をなくす

・偏見をなくすには、ものごとを正しく見ようとする意欲、相手の立場や気持ちをわかつととする姿勢、ものごとを表面的にとらえず深く掘り下げるものの見方が大切です。

・迷信や世間体にとらわれない
・他人の噂話などに影響されない広い視野を持ち、自分自身で考え、判断することが大切です。

同和問題の正しい理解

・同和問題について、正しく学ぶことによって、いかに差別が不合理なものであるかに気づくはずですよ。

(熊本県人権センター)

「くらしと人権」より

益城町教育委員会

地名の歴史

歴史の変遷と地名

313

碑文を一部省き意識します。「先生は名前は貞秀、吉問多」と言い水野家の長男として天保八年に生まれ明治二十八年五十九歳で逝去されました。

先生は幼時から聡明で早くから書道に親しみ、成長してから、龍山磯多翁を師として隸書を学ばれ大変上達されましたが、それに満足せず籀の世

界に入り、それ以来広く古書法帖八體を多年研精、殆ど其の奥義に達し書家の名は世に響きました。その書を請う人々が時には門内に満ち、塾に入門する者が二十人と言います。先生の性格は端嚴謹直、殆ど日常の会話もなく物静かで感情を表さず人々は先生の

気持ちを計り兼ねました。嗚呼先生の人格や能書は述べた通りそのままです。しかし時代の変遷に伴い先生の名声忘れられるのを恐れ、ここに墓碑を立て後世の人に告げる事になりました」

明治初期から中期にかけ肥後三筆の一人とされた頼山の水野家は、徳川家康の実母の実家の

水野氏の流れとされ、細川家で丹後以来の旧臣であり、五百石の武士です。

頼山とは書道の雅号(ペンネーム)で、頂上が円い飯田山の形から採られたと思われる

書は隸書に優れたとされます。一時、時習館の習書師に招かれ後土山に私塾「率性堂」を開き、四書・書習を教えた。特に、師への礼儀を欠く弟子は物静かな日頃と違い、厳しく叱責されました。

◎碑文の註。★臨池↓書を学ぶこと。★籀↓大篆。★古書法帖↓書道の古典、学書の手本。★八體↓中国秦の時代の書体の種類、大篆・小篆・刻符・虫書・篆印・爰書・署書・隸書。現在の書体の種類は楷書・行書・草書・隸書・篆書・仮名・助亭の七種。

益城町文化財を訪ねる会

会長 松野國策



頼山の書(益城町史から)